

平成28年度 綾瀬市立綾瀬小学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	学校経営の方針	
心豊かで たくましく生きる子 ・真心と、思いやりのある子 ・健康で、粘り強い子 ・よく考え、進んで学習する子	(1) 児童一人ひとりの人格や個性を尊重し、豊かな自己実現を図ることをめざす。 (2) 児童の個に応じた多様な指導方法の改善に努める。 (3) 児童一人ひとりが落ち着いて生活できる教育環境の整備に努める。 (4) 人権尊重を基盤にした児童理解といじめのない明るい学校づくりに努める。 (5) 家庭・地域と連携し、地域に開かれた学校づくりに努める。 (6) 社会の変化に対応できる教師をめざし、常に自己研鑽に努める。	
今年度の重点目標		
(1) 豊かな心を持ち、よりよく生きる児童の育成 ・ 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成 ・ 特別活動の推進 ・ 道德教育の推進 ・ 読書活動の推進 (2) 確かな学力の育成 ・ 指導方法の工夫と改善 ・ 言語活動の充実 ・ 生活指導の推進 ○ 具体的な取組の目標 「めあてをもつ」 「よく見てよく聴く」 「心をこめる」		
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「よく考え、進んで学習する子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	多くの児童が「進んで学習に取り組んだ」と評価している。今後も、基礎基本の定着はもちろんのこと、思考力・判断力・表現力を高めるために話し合い、学び合うことを中心に据えた授業づくりに取り組む。また、昨年度に引き続き、家庭との連携を深め、家庭学習のあり方と児童への支援の工夫について研究する。
2 教育課程	児童は、学校行事や特別活動に積極的に参加している。	どの行事でも児童がめあてを持って、熱心に取り組んでいる様子が見られた。また、高学年を中心に、主体的な活動を通じて、達成感を得られた児童も多くいた。今後も、学校行事や特別活動の内容等を工夫し、更に児童が意欲的に取り組めるよう指導する。
3 児童・生徒指導	学校は、「真心と、思いやりのある子」を育てる指導を積極的に行っている。	児童は概ね友だちと仲良く過ごせたようである。来年度も引き続き「真心を込めて人と接する」「丁寧にあいさつをする」「丁寧にそうじをする」の指導を行い、道德教育や福祉体験、また、児童会活動や他学年との交流等を通して、互いに思いやる心を育む取り組みをする。
4 児童・生徒指導	児童は友人や先生との学校生活に満足している。	約9割の児童が「学校は楽しかった」と評価している。また、場に応じたあいさつや気持ちのこもったあいさつができる児童が増えている。多くの児童がルールを守り学校生活を送ろうとしている。来年度は更に、自分自身の良さや児童同士が互いのよさを認め合えるような取組を充実させていく。また、悩みや不安を抱えている児童を把握し、一人ひとりに寄り添い、理解する中でより良い方向へ導いていけるよう努める。

5	児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	保護者と教職員の認識が異なっている実情が見えた。保護者によって、学校の取組みに対する理解やとらえ方が異なっていることがあり、「わからない」と答えた保護者が多かった。いじめ対策の学校の取組みについて、来年度も「学校だより・懇談会・面談」を通して説明し、保護者の理解を得られるように努める。今後も予防や早期発見の取組を徹底するとともに、児童の思いやりの心を育み、一人ひとりが大切にされる学校・学級づくりを目指した指導に一層努める。
6	保健管理	学校は、「健康で、粘り強い子」を育てる指導を積極的に取り組んでいる。	多くの児童が病気やけがの予防に気を配り健康な生活を目指して元気に過ごしているが、規則正しい生活や体力向上については十分な定着が図れていない。来年度も引き続き、生活リズム大作戦や日々の指導を行い、家庭や養護教諭との連携を図りながら取り組む。
7	安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	教職員は「児童の安全」のための指導を行っている。今後も児童の安全確保のために通学路や校舎内外の安全点検を実施するとともに、避難訓練や不審者退避訓練について最善の方法を検討し、緊急時・災害時に適切かつ迅速に対応できるよう努める。またPTAや登校下時の登下校指導ボランティアの方々と連携し、児童の登下校の安全確保に努める。
8	支援教育	学校は児童に応じた支援の工夫をしている。	今後も、安全・支援グループを中心に児童や保護者の教育的ニーズに応じた対応を検討しながら、全教職員で個に応じた支援の充実を図る。また、効果的な学習支援体制の確立や特別支援教育、ことばの教室の教育活動の一層の充実に向けて取り組む。
9	組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	グループで話し合ったものを企画会議で検討し、職員会議で周知するという流れに加え、全教職員で話し合った方がよい内容は打合せで話し合った。来年度も企画会議を毎週設定し、校長の学校経営方針を受けて学校教育目標の具現化に向け、各グループごとの業務を明確にして、教職員の協働体制のもと教育活動を行っていく。
10	教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	来年度も学習指導や児童指導の話し合いを学年内、学校内で頻繁に行い、教職員の意識を高めるとともに、更なる指導力の向上を図る。様々な教育課題に対応するために、来年度も日程を確保し、教職員の資質の向上を図る研究・研修を進める。
11	教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	学年会や児童指導委員会、児童指導全体会、職員会議での情報交換により児童指導の充実を図った。来年度も児童の健全な成長を目指して、児童の実態や課題を十分に話し合っ共同理解を図り、全教職員の協力体制のもと一貫した指導を行う。
12	情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	来年度も「学校・学年だより」や「学級懇談会・個別面談」等の充実を図り、引き続き保護者や地域の方々に教育活動を伝える努力をしていくとともに、地域ボランティアとの連携を図る。また、PTA活動の活性化を図り、「親子ふれあい美化作業・くすのきまつり」等、保護者や地域の方々と協働する取り組みを積極的に行う。
<p>【学校関係者評価委員会からの意見及び改善策】</p> <p>〈意見〉[ことばの教室]へは、綾西小より何人くらい通室しているか。保護者は付くのか。 ・6名通級している。送迎は必ず保護者が付き添うことになっている。</p> <p>〈意見〉いじめの6%について、学校は何件把握しているか。 ・スクールアンケートの結果、担任からの報告で管理職は、把握している。現時点では、全て解決済みである。</p> <p>〈意見〉携帯やスマホのラインの実態が心配であるが、安全面は大丈夫であるか。</p> <p>〈改善策〉学校として本当に苦慮している。 ・学級活動やNTTドコモ、スマホケータイ安全教室(5・6年)を実施し、予防に努めている。 ・市PTA連絡協議会より「携帯電話等の安全な使用についての取り組み」の文書が出、親子で携帯電話の使い方について考える取り組みがなされた。保護者の協力を得て、児童の心身の健全な発達、発育を育てていきます。</p> <p>〈意見〉職員の勤務について9:00過ぎに明かりがついていることがほとんどのようである。先生方は大変過ぎる。だが、No.5・No.11の結果が悪いので、先生方が自信を失くしてしまうのではないか。でも、その必要はない。自信を持ってやってほしい。</p> <p>〈改善策〉事務量を減らすよう努め、精査する工夫をします。</p>			